

2020年度日英教育学会公開研究会のご案内

1) 日 時

2021年3月15日(月) 15:30~17:00

2) 開催方法

Zoomで開催予定(参加方法は後日メールで案内)

3) 事前登録

会員は不要。一般の方は次のURLまたはQRコードから登録して下さい。参加費は無料です。



<https://forms.gle/Xzygn7t7cWKke3og6>

4) テーマ

「英国の高等教育とスチューデントアイデンティフィケーション—教育学と都市地理学の接点を探る—」

5) 趣 旨

スチューデントアイデンティフィケーションとは、英国における1990年代以降の高等教育進学率の上昇を背景に作られた都市地理学の専門用語であり、学生人口の増大と特定地区への集中によってもたらされる都市の社会的、経済的、文化的、空間的変容を意味する。例えば、スチューデントアイデンティフィケーションは学生が学び、暮らし、遊ぶ「学生の空間」を作り出す。この「学生の空間」は、学生が中間階級としてのアイデンティティを身につける空間であるとともに、非伝統的な学生を周縁化し、排除する機能も持つ(中澤 2017)。

従来の英国の高等教育についての研究は、高等教育進学率の機会について、進学率が上昇する中でも依然として社会階層間の格差が存在していること、特にトップレベルの大学へのアクセスの格差が解消されていないこと、政府が格差解消のために(大学での勉強に成功する潜在能力をもつ)志願者をより公正に評価しようとする政策を進めていることを指摘してきた(山村滋(2017)「第4章 英国の大学～大学のしくみと大学生～ 第2節 入試制度」日英教育学会編『英国の教育』東信堂)。

都市地理学におけるスチューデントアイデンティフィケーション研究は、高等教育における機会の均等や社会的包摂と排除といった問題について、新たな視座を提供しうる。以上の観点から、教育学と都市地理学の接点を探る機会としたい。

6) 講 師

中澤高志(明治大学) 経済地理学・都市地理学

【関連論文】中澤高志(2017)「スチューデントアイデンティフィケーションとは何か—論点の整理と日本の都市地理学研究への示唆—」『都市地理学』Vol.12.

担当：片山勝茂(東京大学)・吉原美那子(高崎経済大学)